入学試験問題

地理歴史

前

（配点 120 点）

令和 2 年 2 月 26 日　　9 時 30 分—12 時

注意事項

1 試験開始の合図があるまで，この問題冊子を開いてはいけません。

2 この問題冊子は全部で 47 ページあります（本文は日本史 4 問 4 ～13 ページ，世界史 3 問 14～27 ページ，地理 3 問 28～47 ページ）。
落丁，乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら，手を挙げて監督者に知らせなさい。

3 日本史，世界史，地理のうちから，あらかじめ届け出た 2 科目について解答しなさい。

4 解答には，必ず黒色鉛筆（または黒色シャープペンシル）を使用しなさい。

5 解答は，1 科目につき 1 枚の解答用紙を使用しなさい。

6 **解答用紙の指定欄に，受験番号（表面 2 箇所，裏面 1 箇所），科類，氏名を記入しなさい。指定欄以外にこれらを記入してはいけません。**

7 **解答は，必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。**

8 解答用紙表面上方の指定された（　　）内に，その用紙で解答する科目名を記入しなさい。

9 解答用紙表面の上部にある切り取り欄のうち，その用紙で解答する科目の分のみ 1 箇所をミシン目に沿って正しく切り取りなさい。

10 **解答用紙の解答欄に，関係のない文字，記号，符号などを記入してはいけません。また，解答用紙の欄外の余白には，何も書いてはいけません。**

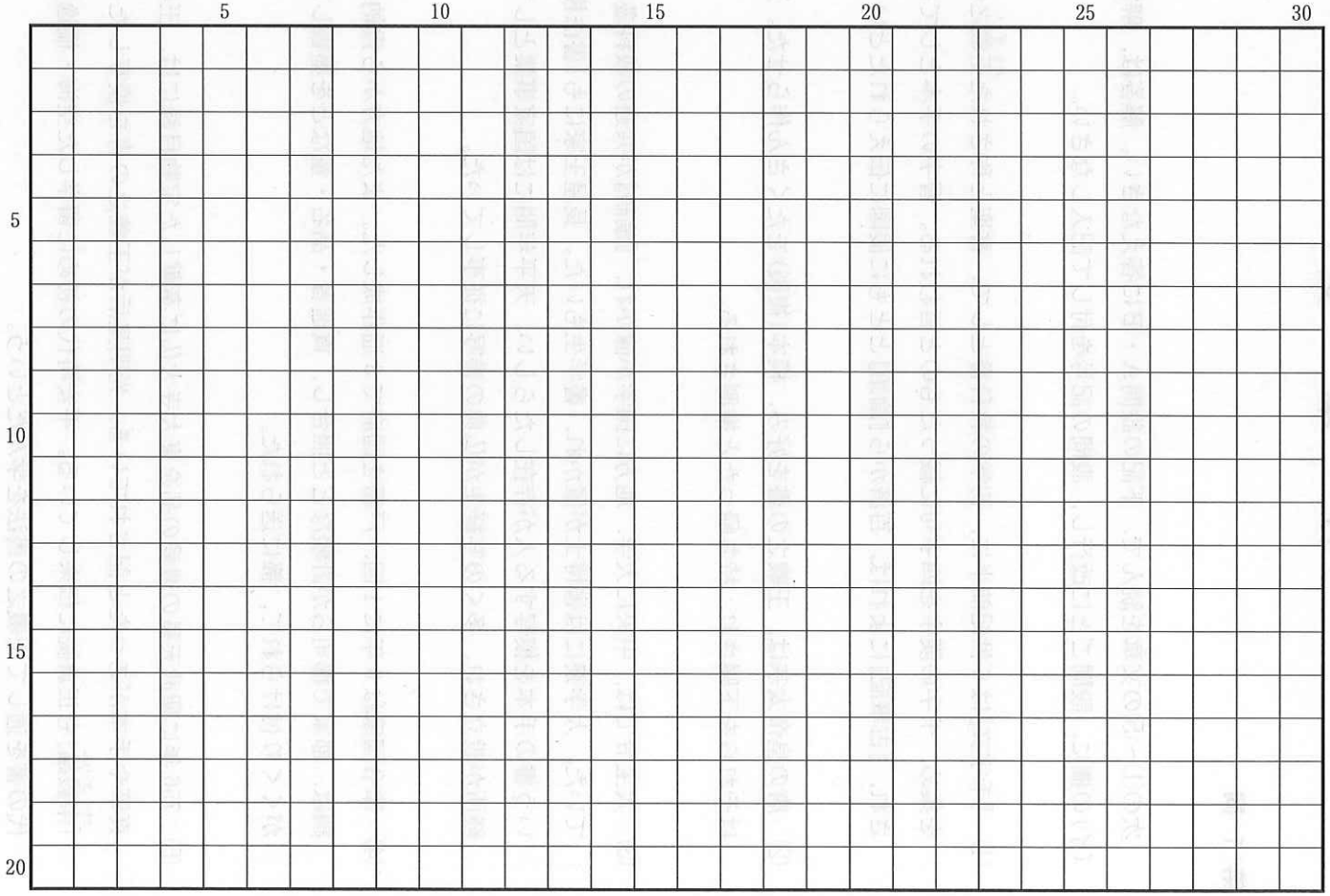
11 この問題冊子の余白は，草稿用に使用してもよいが，どのページも切り離してはいけません。

12 解答用紙は，持ち帰ってはいけません。

13 試験終了後，問題冊子は持ち帰りなさい。

◇M5（249—74）

草　稿　用　紙　（切り離さないで用いよ。）



日　本　史

第 1 問

次の(1)～(5)の文章を読んで，下記の設問Ａ・Ｂに答えなさい。解答は，解答用紙(イ)の欄に，設問ごとに改行し，設問の記号を付して記入しなさい。

(1) 『千字文』は6世紀前半に，初学の教科書として，書聖と称された王羲之(おうぎし)の筆跡を集め，千字の漢字を四字句に綴ったものと言われる。習字の手本としても利用され，『古事記』によれば，百済から『論語』とともに倭国に伝えられたという。

(2) 唐の皇帝太宗は，王羲之の書を好み，模本(複製)をたくさん作らせた。遣唐使はそれらを下賜され，持ち帰ったと推測される。

(3) 大宝令では，中央に大学，地方に国学が置かれ，『論語』が共通の教科書とされていた。大学寮には書博士が置かれ，書学生もいた。長屋王家にも「書法模人」という書の手本を模写する人が存在したらしい。天平年間には国家事業としての写経所が設立され，多くの写経生が仏典の書写に従事していた。

(4) 律令国家は6年に1回，戸籍を国府で3通作成した。また地方から貢納される調は，郡家で郡司らが計帳などと照合し，貢進者・品名・量などを墨書した木簡がくくり付けられて，都に送られた。

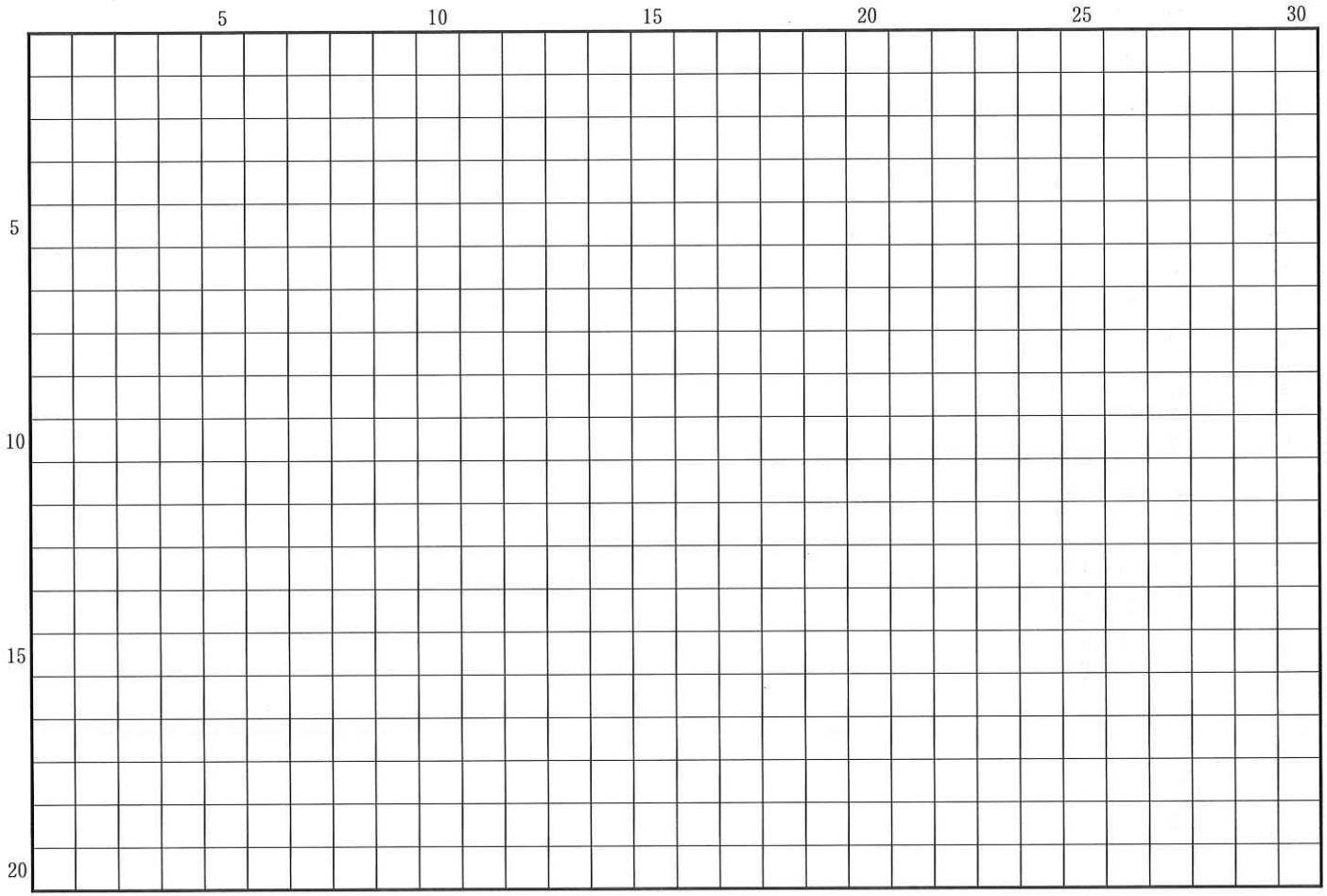
(5) 756年に聖武天皇の遺愛の品を東大寺大仏に奉献した宝物目録には，王羲之の真筆や手本があったと記されている。光明皇后が王羲之の書を模写したという「楽毅論(がっきろん)」も正倉院に伝来している。平安時代の初めに留学した空海・橘逸勢も唐代の書を通して王羲之の書法を学んだという。

設　問

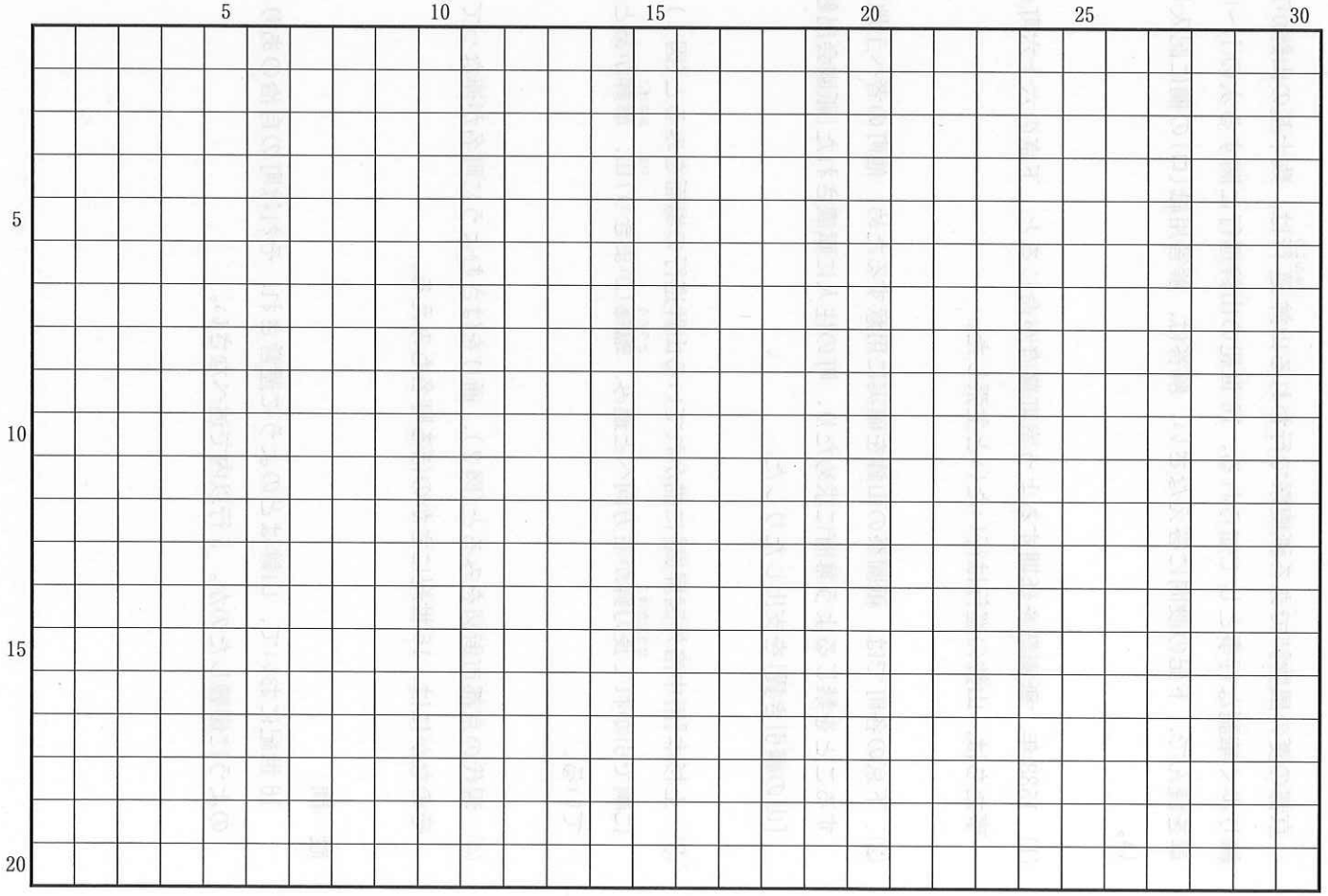
A　中央の都城や地方の官衙から出土する8世紀の木簡には，『千字文』や『論語』の文章の一部が多くみられる。その理由を2行以内で述べなさい。

B　中国大陸から毛筆による書が日本列島に伝えられ，定着していく。その過程において，唐を中心とした東アジアの中で，律令国家や天皇家が果たした役割を4行以内で具体的に述べなさい。

草　稿　用　紙　（切り離さないで用いよ。）



草　稿　用　紙　（切り離さないで用いよ。）



第 2 問

京都の夏の風物詩である祇園祭で行われる山鉾巡行(じゅんこう)は，数十基の山鉾が京中を練り歩く華麗な行事として知られる。16 世紀の山鉾巡行に関する次の(1)～(4)の文章を読んで，下記の設問に答えなさい。解答は，解答用紙(ロ)の欄に記入しなさい。

(1) 1533 年，祇園祭を延期するよう室町幕府が命じると，下京の六十六町の月行事たちは，山鉾の巡行は行いたいと主張した。

(2) 下京の各町では，祇園祭の山鉾を確実に用意するため，他町の者へ土地を売却することを禁じるよう幕府に求めたり，町の住人に賦課された「祇園会出銭」から「山の綱引き賃」を支出したりした。

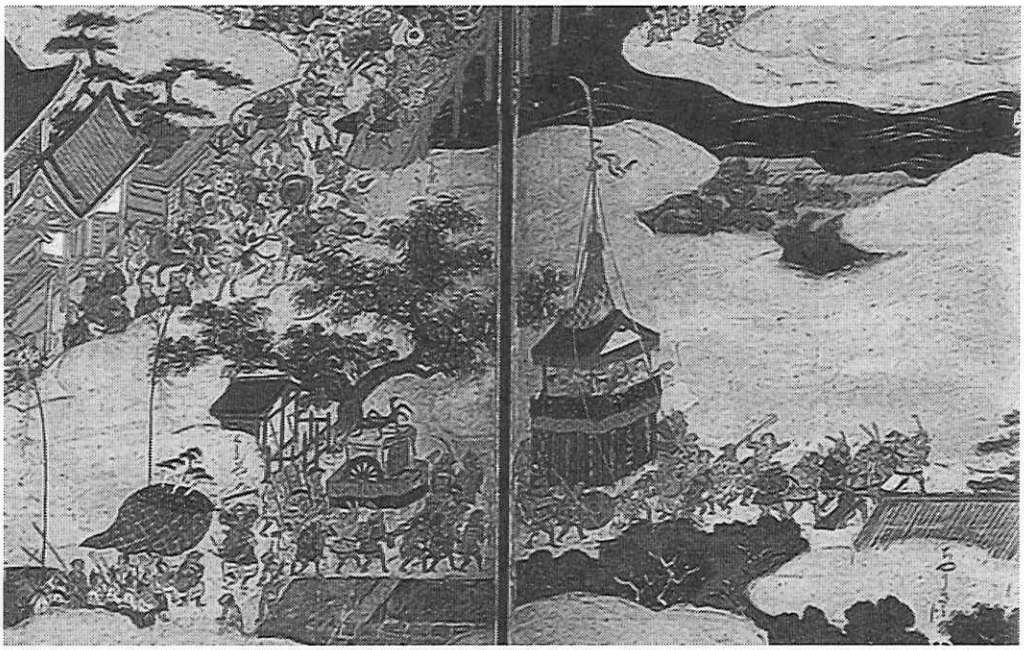
(3) 上杉本『洛中洛外図屏風』に描かれている山鉾巡行の場面をみると(図 1)，人々に綱で引かれて長刀鉾(なぎなたぼこ)が右方向へと進み，蟷螂(とうろう)(かまきり)山(やま)，傘鉾(かさぼこ)があとに続いている。

(4) 現代の京都市街図をみると(図 2)，通りをはさむように町名が連なっている。そのなかには，16 世紀にさかのぼる町名もみえる。

設　問

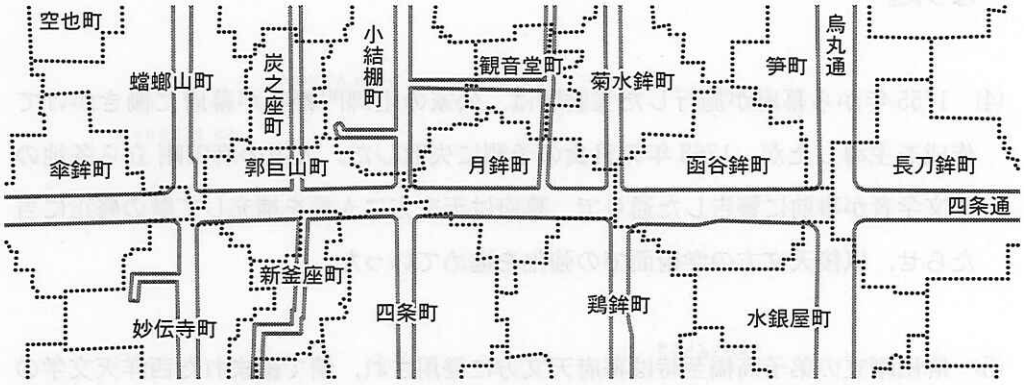
16 世紀において，山鉾はどのように運営され，それは町の自治のあり方にどのように影響したのか。5 行以内で述べなさい。

図 1



（『国宝　上杉本　洛中洛外図屏風』米沢市上杉博物館より）

図 2



……は町の境界である。

第 3 問

次の(1)～(5)の文章を読んで，下記の設問Ａ・Ｂに答えなさい。解答は，解答用紙(ハ)の欄に，設問ごとに改行し，設問の記号を付して記入しなさい。

(1) 日本では古代国家が採用した唐の暦が長く用いられていた。渋川春海(しぶかわはるみ)は元(げん)の暦をもとに，明で作られた世界地図もみて，中国と日本(京都)の経度の違いを検討し，新たな暦を考えた。江戸幕府はこれを採用し，天体観測や暦作りを行う天文方を設置して，渋川春海を初代に任じた。

(2) 朝廷は幕府の申し入れをうけて，1684 年に暦を改める儀式を行い，渋川春海の新たな暦を貞享暦と命名した。幕府は翌 1685 年から貞享暦を全国で施行した。この手順は江戸時代を通じて変わらなかった。

(3) 西洋天文学の基礎を記した清の書物『天経或問(てんけいわくもん)』は，「禁書であったが内容は有益である」と幕府が判断して，1730 年に刊行が許可され，広く読まれるようになった。

(4) 1755 年から幕府が施行した宝暦暦は，公家の土御門泰邦(つちみかどやすくに)が幕府に働きかけて作成を主導したが，1763 年の日食の予測に失敗した。大坂の麻田剛立(あさだごうりゅう)ら各地の天文学者が事前に警告した通りで，幕府は天文方に人員を補充して暦の修正に当たらせ，以後天文方の学術面での強化を進めていった。

(5) 麻田剛立の弟子高橋至時(たかはしよしとき)は幕府天文方に登用され，清で編まれた西洋天文学の書物をもとに，1797 年に寛政暦を作った。天文方を継いだ高橋至時の子渋川景佑(しぶかわかげすけ)は，オランダ語の天文学書の翻訳を完成し，これを活かして 1842 年に天保暦を作った。

設　問

A　江戸時代に暦を改めるに際して，幕府と朝廷はそれぞれどのような役割を果たしたか。両者を対比させて，2行以内で述べなさい。

B　江戸時代に暦を改める際に依拠した知識は，どのように推移したか。幕府の学問に対する政策とその影響に留意して，3行以内で述べなさい。

第 4 問

次の(1)・(2)の文章は，軍人が実践すべき道徳を論じた明治時代の史料から，一部を抜き出して現代語訳したものである。これを読んで，下記の設問A・Bに答えなさい。解答は，解答用紙(二)の欄に，設問ごとに改行し，設問の記号を付して記入しなさい。

(1) 維新以後の世の風潮の一つに「民権家風」があるが，軍人はこれに染まることを避けなくてはいけない。軍人は大元帥である天皇を戴き，あくまでも上下の序列を重んじて，命令に服従すべきである。いま政府はかつての幕府に見られた専権圧制の体制を脱し，人民の自治・自由の精神を鼓舞しようとしており，一般人民がそれに呼応するのは当然であるが，軍人は別であるべきだ。

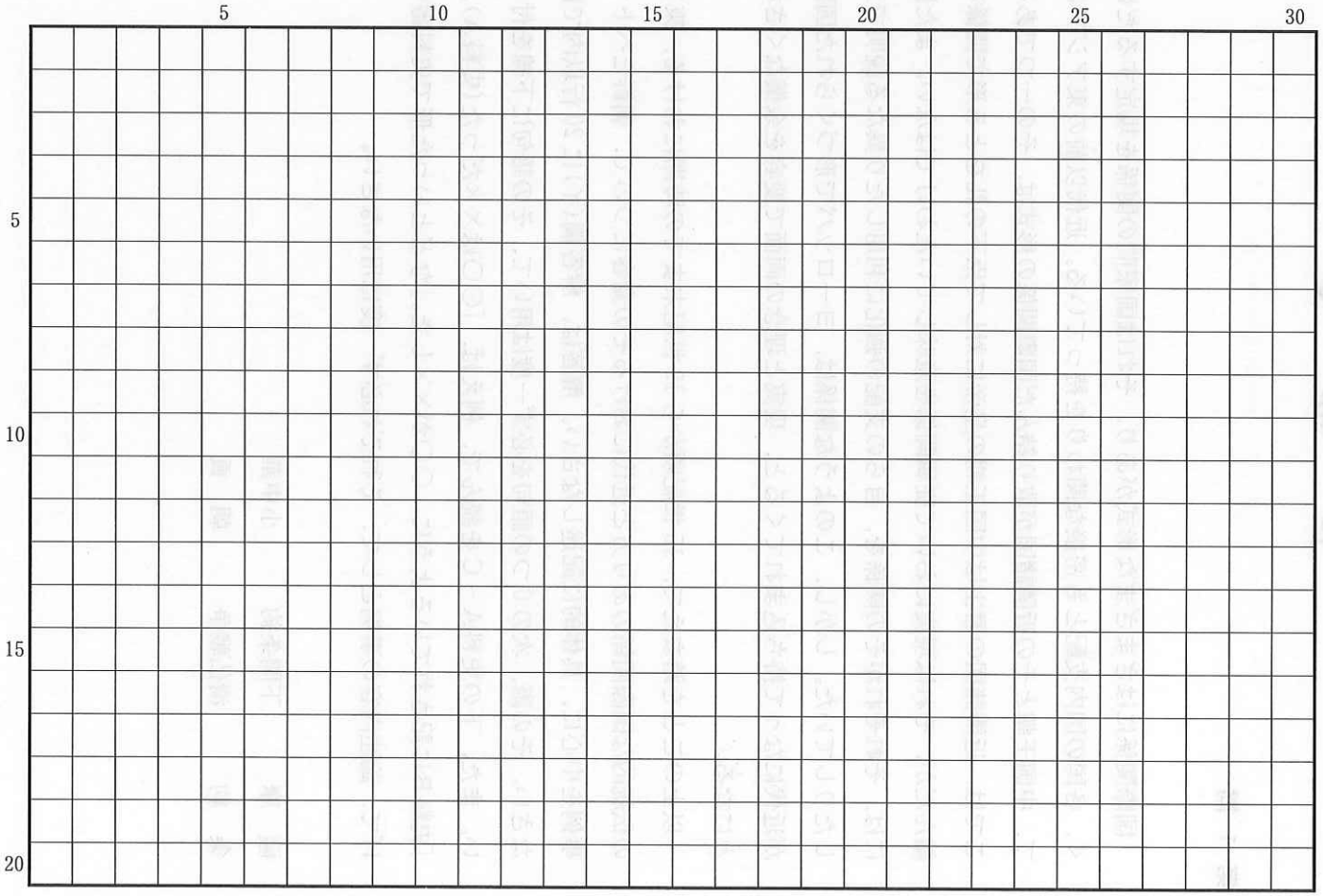
(西周「兵家徳行」第4回，1878年5月。陸軍将校に対する講演の記録)

(2) 軍人は忠節を尽くすことを本分とすべきである。兵力の消長はそのまま国運の盛衰となることをわきまえ，世論に惑わず，政治に関わらず，ひたすら忠節を守れ。それを守れず汚名を受けることのないようにせよ。

(「軍人勅諭」1882年1月)

設　問

A　(1)の主張の背景にある，当時の政府の方針と社会の情勢について，3行以内で述べなさい。

B　(2)のような規律を掲げた政府の意図はどのようなものだったか。当時の国内政治の状況に即しながら，3行以内で述べなさい。

草　稿　用　紙　（切り離さないで用いよ。）